

協議事項（４）

スワン号（乗合タクシー）実証運行に関する報告書（案）及び公共交通不便地域対応指針（案）について

1. 主旨

実証期間における平成30年12月から令和5年10月31日までの運行状況に基づき、検証した結果の報告書を作成しました。

また、スワン号の実証運行の検証結果を踏まえ、市内の公共交通不便地域における、今後の対応について定めた「交通不便地域対応指針（案）」の策定方針の策定に向けた、考え方等の草案について、ご審議いただくものです。

資料内容

- ・スワン号（乗合タクシー）実証実験に関する報告書（案）
- ・公共交通不便地域対応指針（案）の策定について

スワン号(乗合タクシー)実証運行に関する報告書
(案)

令和 年 月

印西市企画財政部交通政策課

実験の背景・目的・経過

「スワン号」につきましては、旧本埜第二小学校周辺地域の交通移動手段の一つとなるよう、アンケート調査などにより地域の皆様のご意見を伺いながら、平成30年12月から、朝夕は「定時定路線型」、昼間は「デマンド型(予約制)」の2つの運行形態による実証運行を開始しました。

令和元年10月1日にルートの見直し及びダイヤ改正とともに、日中のデマンド型の便数を3便から4便へ増便を行い、旧本埜第二小学校周辺区域の中で乗車又は降車するという利用条件の緩和を実施しました。その後、長期にわたる新型コロナウイルス感染症拡大が続き、公共交通全体に大きな影響を与えました。

スワン号は、1日あたり約1人の利用状況であり、運行当初から利用目標人数を下回る状況が続く中、令和5年2月に、今後のスワン号の運行方法について、見直しの参考とするため、地区の皆様アンケート調査を行いました。アンケート結果から、スワン号を利用しない理由として、他の移動手段をもっているとの回答が大半を占め、今後の運行についての設問では、「定時定路線型・デマンド型運行以外の方法に変更した方がいい」という回答が多くを占めました。

このアンケート結果を基に、地域公共交通会議での協議を経て、令和5年10月31日をもってスワン号の運行終了し、11月1日から、「タクシー利用助成事業(地域公共交通利用補助)」の実証実験を新たに開始しました。

※当報告書は、スワン号運行の実証運行開始から終了の令和5年10月31日までの運行データに基づき検証しています。

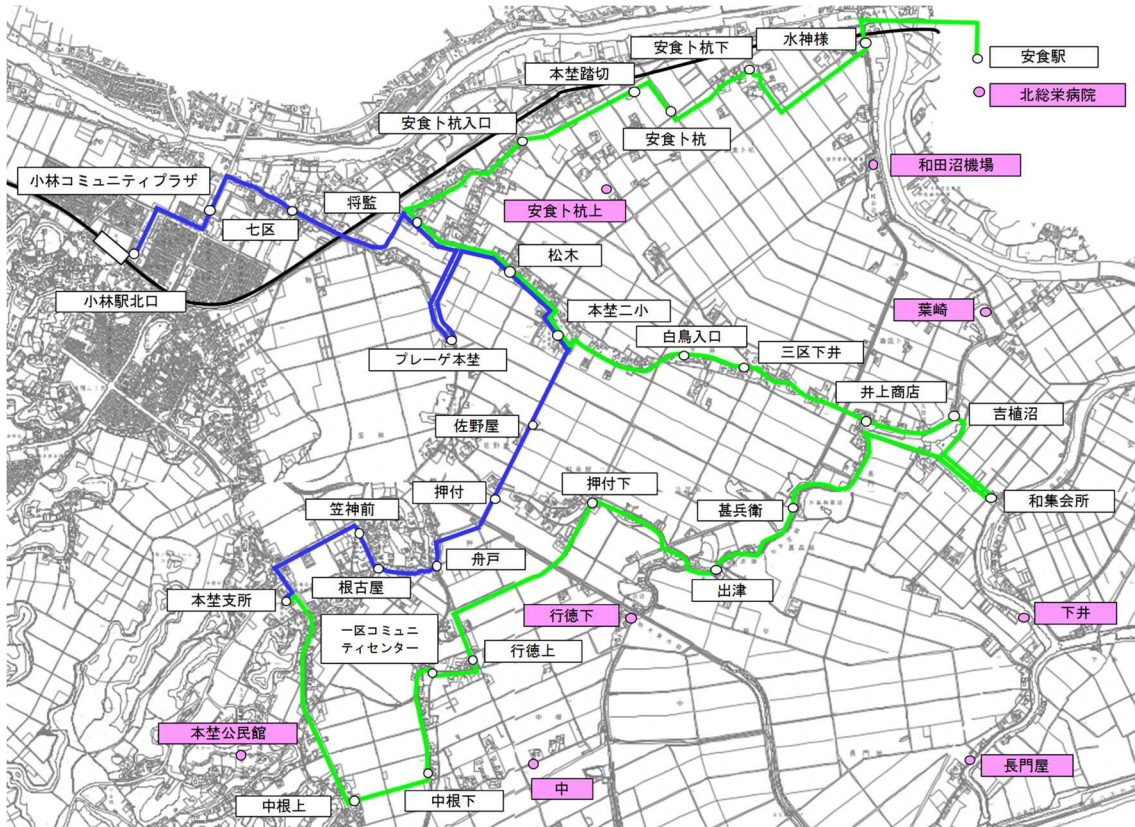


スワン号運行に用いた車両

スワン号実証運行概要

- 期 間:平成30年12月～令和5年10月31日(令和元年10月1日に運行見直し)
- 運 行 エリア:旧本笠第二小学校周辺地域
- 運 行 方 法:定時定路線型、デマンド型(予約制)
- 運行日及び時間:定時定路線型 365日、6:55～9:21、16:15～18:35
 :デマンド型 10時、11時30分、13時30分、15時便
- 利 用 対 象 者:制限なし
- 利 用 料 金:大人 300 円、小人(小・中・高校生)150 円
 障害者手帳保持者と介助者1人は半額(端数は10円に切り上げ)
- 利 用 者 登 録:不要
- 予 約 受 付:乗車の3日前の9時から、午前便は前日17時まで、午後便は当日正午まで

■スワン号運行ルート図(令和元年10月1日改正後) 図1



※ピンクで示した停留所については、デマンド型のみの停留所

※地図外でデマンド型乗合タクシーの利用可能な乗降場所

本笠クリニックタウン、印旛日本医大駅、日本医大病院、ナリタヤ印旛日本医大前店

実証運行結果

(1) 市負担額及び運賃収入額

市負担額		運賃収入額	
平成 30 年度	4,700,000 円	平成 30 年度	44,400 円
令和元年度	14,200,215 円	令和元年度	84,750 円
令和2年度	14,309,900 円	令和2年度	49,950 円
令和3年度	14,445,200 円	令和3年度	108,800 円
令和4年度	14,445,200 円	令和4年度	102,450 円
令和5年度	8,478,800 円	令和5年度	58,800 円
合 計	70,579,315 円	合 計	449,150 円

(平成 30 年度は運行期間が平成 30 年 12 月 1 日～平成 31 年 3 月末の実績
令和5年度は運行期間が令和5年4月1日～令和5年10月末の実績)

・収支率(運賃収入額÷市負担額)については、全年度において1%未満となっています。

(2) 利用者数

	定時定路線	デマンド型	1日あたり
平成 30 年度	92 人	72 人	1.4 人
令和元年度	140 人	153 人	0.8 人
令和2年度	61 人	155 人	0.6 人
令和3年度	167 人	232 人	1.1 人
令和4年度	216 人	206 人	1.2 人
令和5年度	147 人	101 人	1.2 人

・利用者数については、新型コロナウイルス感染症の影響が少ない、令和5年度において、1日あたり約1.2人、1便あたり約0.2人となっています。

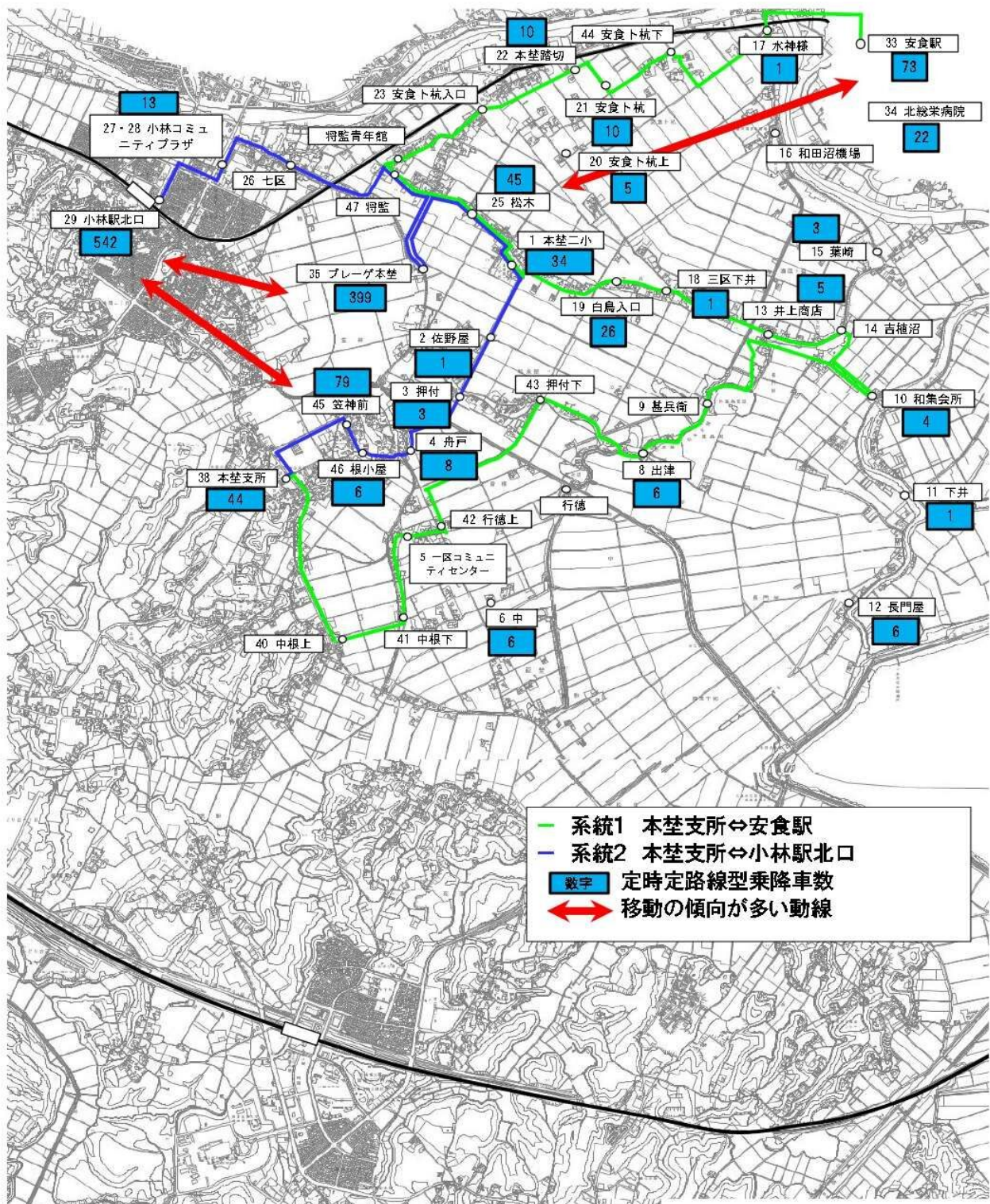
・令和元年度後半からの新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通全体として利用が激減した期間が生じています。

(参考:平成30年12月末時点の本埜地区人口 3,506人、令和5年9月末時点の本埜地区人口 3,318人 印西市作成大字人口表より)

(3) 停留所毎の乗降者数(全年度実績)

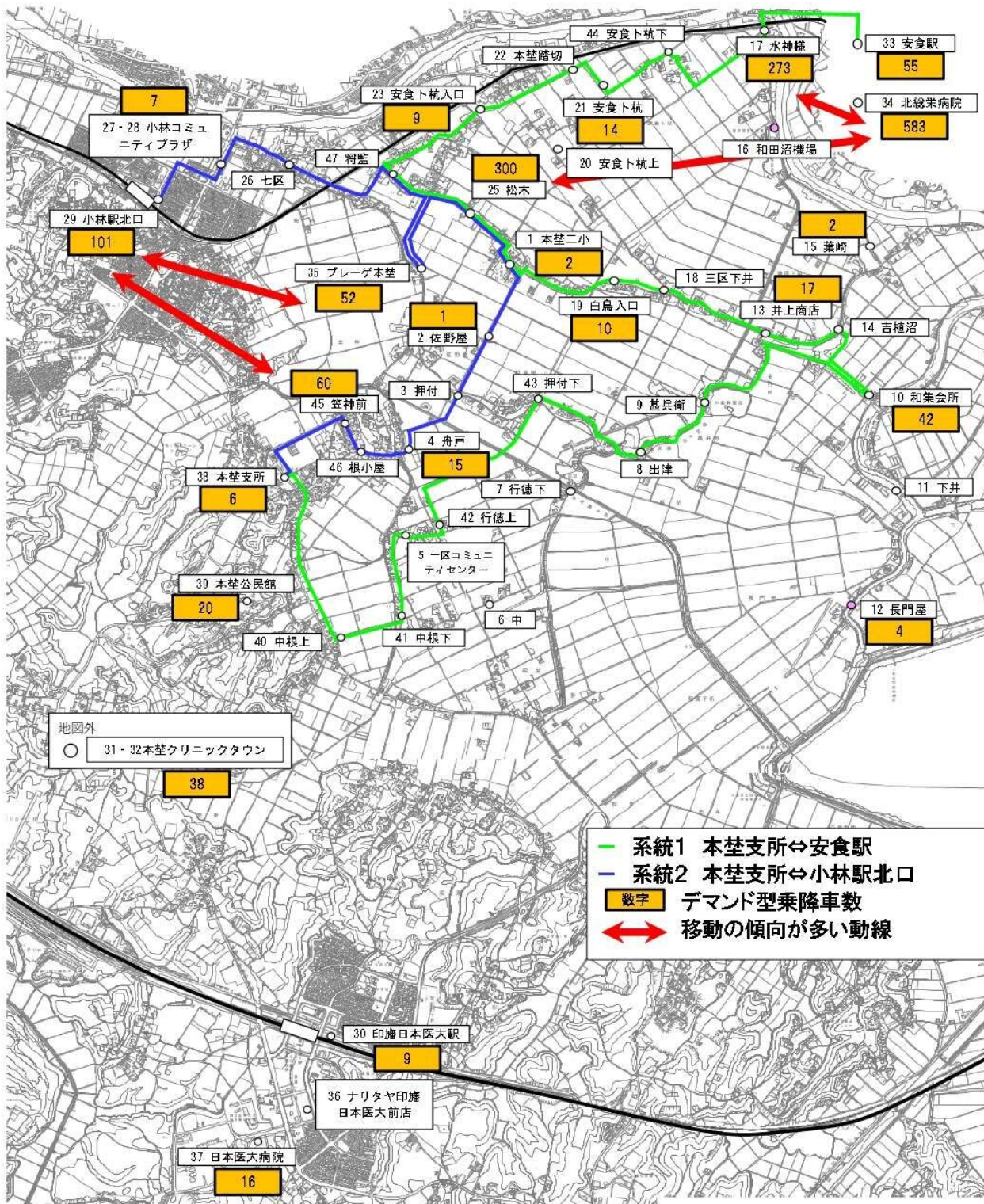
定時定路線型			デマンド型		
	停留所名	乗降者数		停留所名	乗降者数
1	小林駅北口	542人	1	北総栄病院	583人
2	プレーグ本埜	399人	2	松木	300人
3	笠神前	79人	3	水神様	273人
4	安食駅	73人	4	小林駅北口	101人
5	松木	45人	5	笠神前	60人

■スワン号(定時定路線) 停留所別 乗降者数(H30~R4 年度) 図2



※系統1、2上にはない停留所は、令和元年度運行見直し前に通っていた停留所

■スワン号(デマンド型) 停留所別 乗降者数(H30~R4 年度) 図3



(4)主な移動傾向

定時定路線型では、「小林駅北口」停留所の利用が最も多く、「プレーゲ本桙」⇔「小林駅北口」間の利用が多い状況でした。

また、デマンド型は、「北総栄病院」停留所の利用が最も多く、「水神様」⇔「北総栄病院」、「松木」⇔「北総栄病院」間の利用が多い状況となっています。

また、主な移動傾向として、図2、3の結果から、1、2人の人が1週間に1、2回の頻度での利用をしている状況が確認できました。

(5)スワン号に関するアンケート結果の概要(令和5年2月)

項目	調査の概要
対象者	本桙第二小学校周辺地域(一区・二区・三区・酒直ト杭・安食ト杭・将監・和区)の町内会加入者
回収率等	回収率 61.9% 配布数:924 回収数:572
調査方法	各地区区長様を通じて配布・回収
配布・回収時期	配布時期:令和5年2月初め 回収時期:令和5年2月末
調査項目	・回答者の属性 ・スワン号の認知状況、利用状況、満足度等 ・スワン号の今後の運行方法等について

項目	回答の概要
回答者の属性	65歳以上が全体の57.7%
利用状況	「利用したことが無い」が全体の9割以上
利用した人の目的	「通院」32%、「鉄道利用」25%、「買い物」17%
利用していない人の理由	「他の移動手段を持っている」74%、「乗降場所自宅から遠い」10%、「予約するのに手間がかかる」7%
今後の運行方法	「定時定路線・フルデマンド以外に変更(タクシー利用補助券の配布等)」47%、「このままの運行方法を継続して様子みる」23%、「フルデマンド型の運行方法に変更」18%
主な自由意見等(要約)	・利用者が少なく、費用対効果が悪い ・道が狭いため、すれ違う時危ない ・現在は他の移動手段があるが、将来は必要かもしれない

実証運行全体についての考察

(1) 利用動向からの視点

制度導入時は、主として通勤通学の利用を想定し、定時・定路線型での運行を開始した結果、限られた便数の中、通勤・通学の足として広く利用されていない移動傾向となっています。

また、JR 小林駅方面、JR 安食駅方面、北総鉄道印西駅牧の原駅方面、成田方面等、当該地域からの移動方向は複数想定され(図4)、需要が分散し、少ない便数の中、移動ニーズに効率的な対応が難しい状況であったと推測されます。

■ 旧本埜第二小学校周辺地域からの移動方向 図4

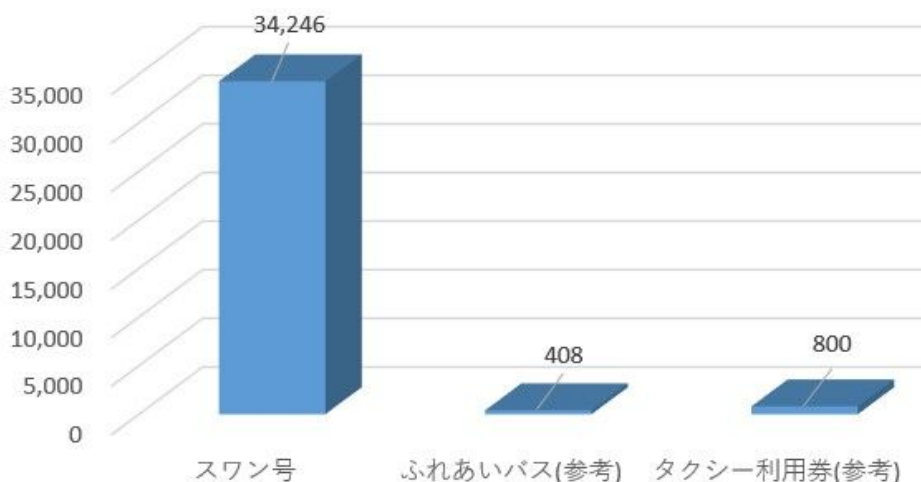


- ・乗合タクシーという性質上、目的地に向かうまでに車内で他の利用者と相乗りとなる場合があり、令和元年度以降の新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことが、利用者の減少の要因の1つであると推測されます。

(2)経費負担からの視点

- ・ デマンド交通の運賃は、定額300円とタクシー運賃と比較して安価であったものの、利用状況は少ない結果となりました。公共交通機関を利用する理由として、「安価である」以外にも、アンケート結果から、「乗降場所が自宅から遠い」「予約するのに手間がかかる」といった理由から、自家用車で移動に近い形態が望まれていると推測されます。
- ・ デマンド型交通は経費面から効率の良いとみなされている事業方式である一方で、利用状況によっては多くの費用負担が生じる場合があります。今回の実証運行では、利用1回あたりの輸送について令和4年度において約34,000円の行政負担が生じています。

■利用1回あたりの行政負担額の比較 図5



・ 交通不便地域が存在するという課題に加え、将来的な高齢化の進行・財政状況を見据える中、より効率的で効果的な交通手段を提供できる交通形態への取り組みが求められています。大半の人が、自家用車等の他の交通手段を持っている割合が高い地域において、デマンド交通は、利用者にとって、本当に利用しやすい手段となるのか、持続可能な経費負担で実施できるのか、十分に留意する必要があります。

(4)タクシー利用助成事業(地域公共交通利用補助)の実証実験の開始

スワン号の運行を終了後、アンケート調査を基に、その影響が大きいと見込まれる旧本埜第二小学校周辺地域に在住する高齢者を対象として、日常生活で必要とされる移動手段の確保に関する検証を目的とした、「タクシー利用助成事業(地域公共交通利用補助)」の実証実験を令和5年11月1日から、新たに開始することとしました。

利用券による助成金額については上限があり、スワン号の運賃は一律であったため、利用者の負担が増えるケースが想定されます。助成金額の内容については、利用者数等、利用状況やタクシー運賃の状況などから、検討を行っていく必要があります。

今後は、公共交通不便地域への対応方法の一つとして、当該事業について検証を行うとともに、必要に応じた制度の見直しを進めていく必要があります。

【参考資料】

スワン号(乗合タクシー)に関する
アンケート
報告書

令和5年3月

一区、二区、三区、酒直卜杭
安食卜杭、将監、和区
印西市企画財政部交通政策課

調査の概要

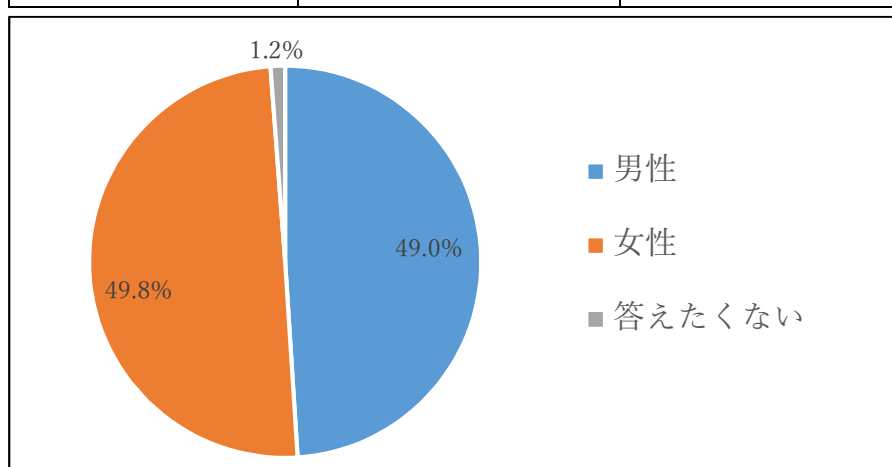
スワン号の見直しの方向性について参考とするためのアンケート調査の集計が終了しましたので、以下の通り報告させていただきます。

項目	概要
対象者	本埜第二小学校周辺地域（一区・二区・三区・酒直ト杭・安食ト杭・将監・和区）の町内会加入者
回収率等	回収率 61.9% 配布数：924 回収数：572
調査方法	各地区区長様を通じて配布・回収
配布回収時期	配布時期：令和5年2月初め 回収時期：令和5年2月末
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・回答者の属性・スワン号の認知状況、利用状況、満足度等・スワン号の今後の運行方法

問1 アンケート回答者の属性

問1-1. あなたの性別を教えてください。

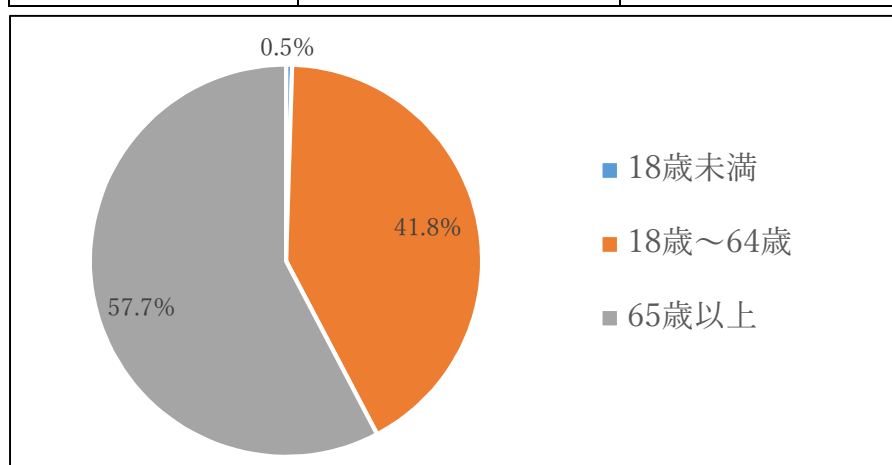
	回答数	割合
男性	280	49.0%
女性	285	49.8%
答えたくない	7	1.2%
合計	572	—



問1-2. あなたの年齢を教えてください。

・アンケート回答者については、「18歳未満」が3人、「18歳～64歳」が239人、「65歳以上」が330人と「65歳以上」が過半数を占めた。

	回答数	割合
18歳未満	3	0.5%
18歳～64歳	239	41.8%
65歳以上	330	57.7%
合計	572	—

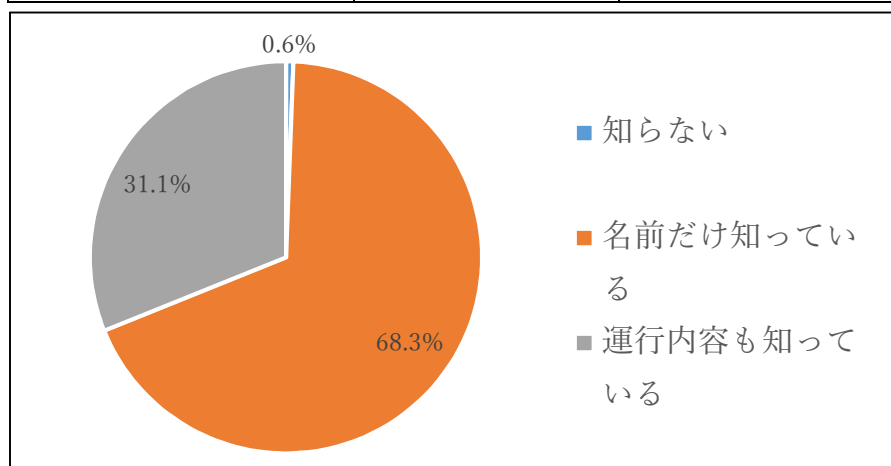


問2 スワン号の利用状況等について

問2-1. あなたはスワン号をご存知ですか。

・「知らない」が最も少なく、「名前だけ知っている」が全体の約7割を占めた。

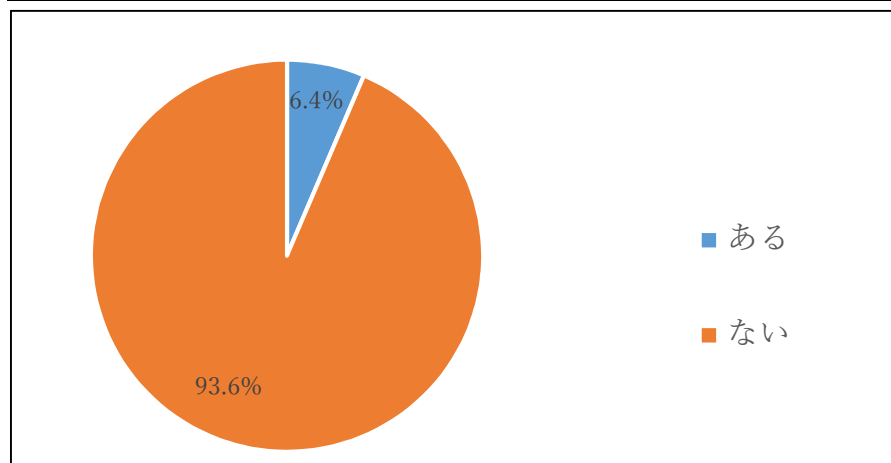
	回答数	割合
知らない	37	0.6%
名前だけ知っている	362	68.3%
運行内容も知っている	165	31.1%
合計	564	—



問2-2. スワン号を今までにご利用したことがあるか教えてください。

・「ある」が6%にとどまり、「ない」が93.6%という結果となった。

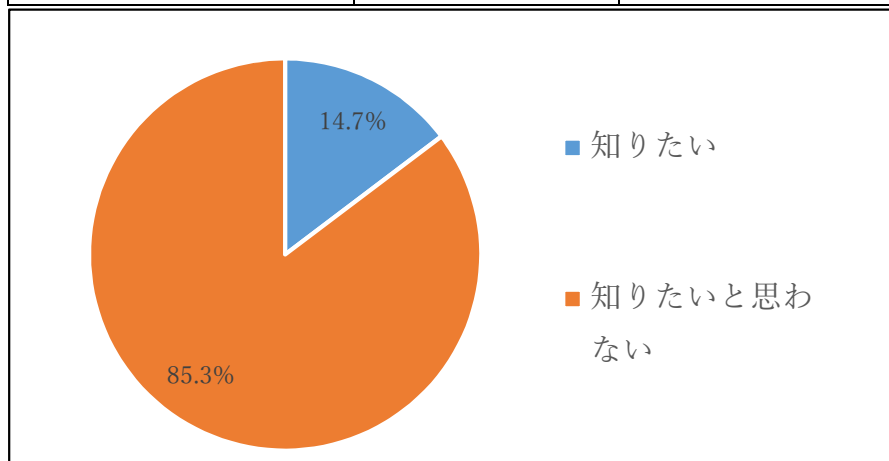
	回答数	割合
ある	36	6.4%
ない	524	93.6%
合計	560	—



問2-3. (問2-1で1.「知らない」と回答した方へ)
スワン号の運行情報等について、知りたいと思いますか。

・「知りたいと思わない」が「知りたい」を上回り、約85%の結果となった。

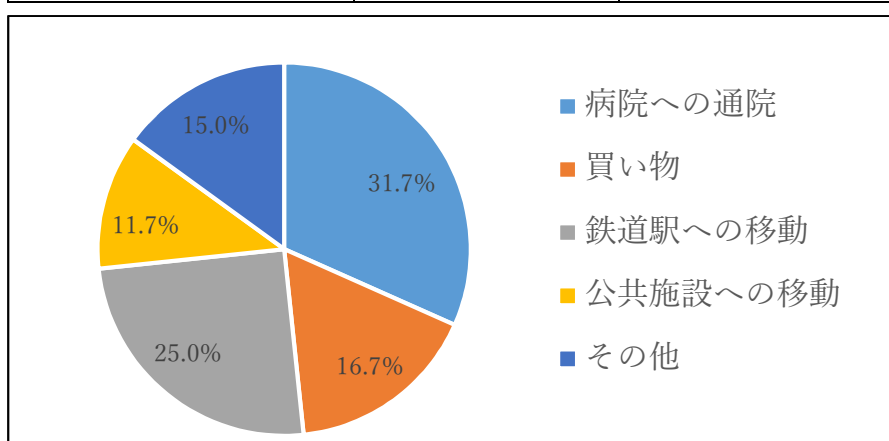
	回答数	割合
知りたい	5	14.7%
知りたいと思わない	29	85.3%
合計	34	—



問2-4. (問2-2で1.「ある」と回答した方へ)
スワン号の利用目的を教えてください(複数回答可)。

・利用目的としては、「病院への通院」が最も多かった。「その他」の内容としては、大半が「通勤のため」といった内容だった。

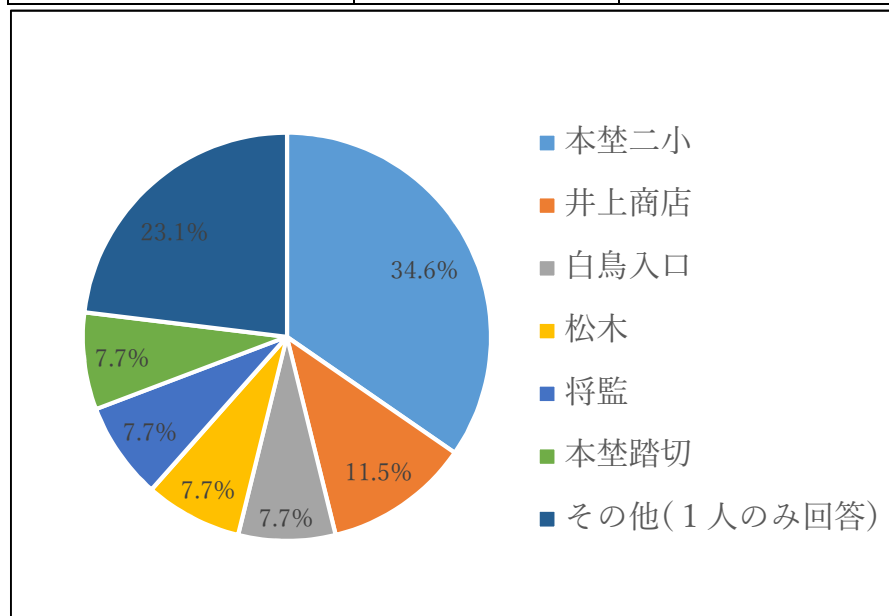
	回答数	割合
病院への通院	19	31.7%
買い物	10	16.7%
鉄道駅への移動	15	25.0%
公共施設への移動	7	11.7%
その他	9	15.0%
合計	60	—



**問2-5. (問2-2で1.「ある」と回答した方へ)
主な乗車場所を教えてください。**

・乗車場所については、「本埜二小」が一番多い回答数となった。

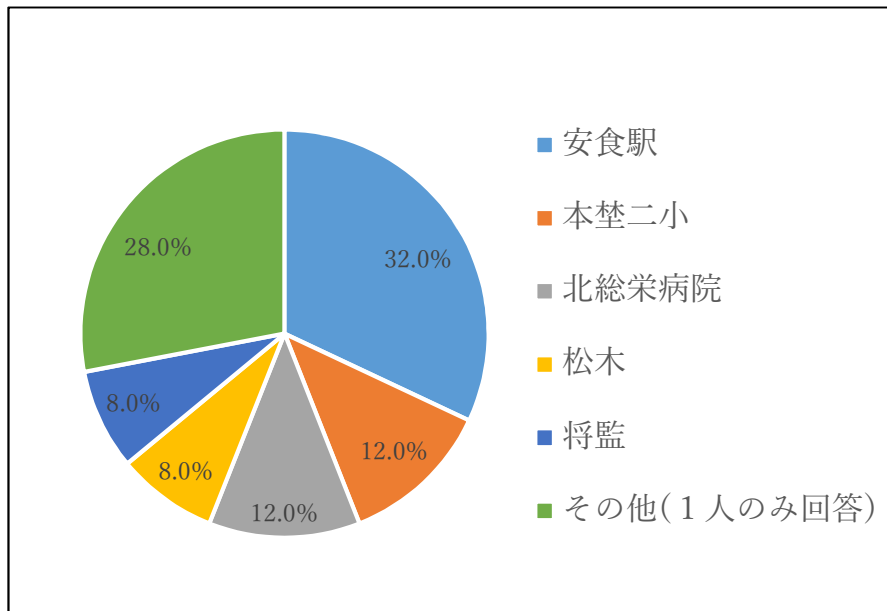
多い順	回答数	割合
本埜二小	9	34.6%
井上商店	3	11.5%
白鳥入口	2	7.7%
松木	2	7.7%
将監	2	7.7%
本埜踏切	2	7.7%
その他(1人のみ回答)	6	23.1%
合計	26	—



**問2-5. (問2-2で1.「ある」と回答した方へ)
主な降車場所を教えてください。**

・「安食駅」が最も多く、「本埜二小」及び通院先の「北総栄病院」が次に多かった。

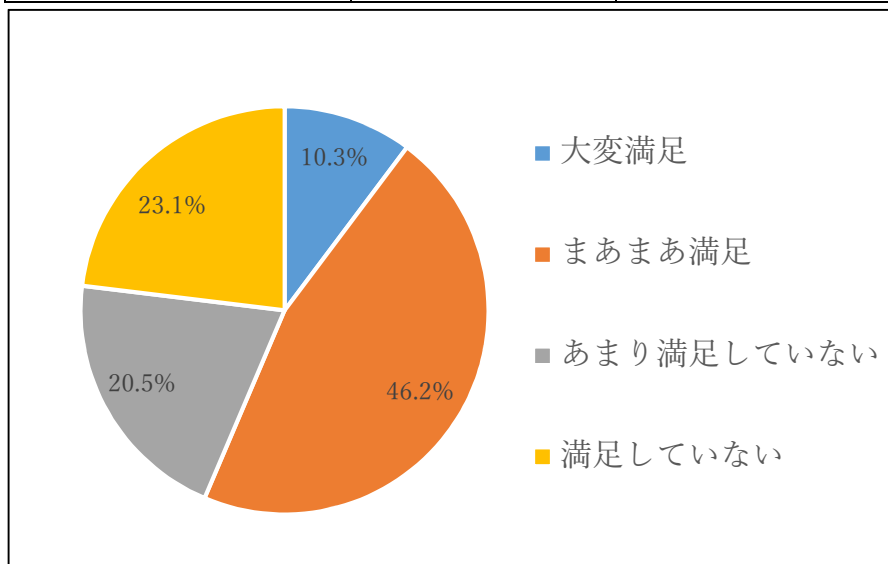
多い順	回答数	割合
安食駅	8	32.0%
本埜二小	3	12.0%
北総栄病院	3	12.0%
松木	2	8.0%
将監	2	8.0%
その他(1人のみ回答)	7	28.0%
合計	25	—



**問2-6. (問2-2で1.「ある」と回答した方へ)
スワン号の満足度について教えてください。**

・利用されている方からの回答としては、「まあまあ満足」が約半数となった。

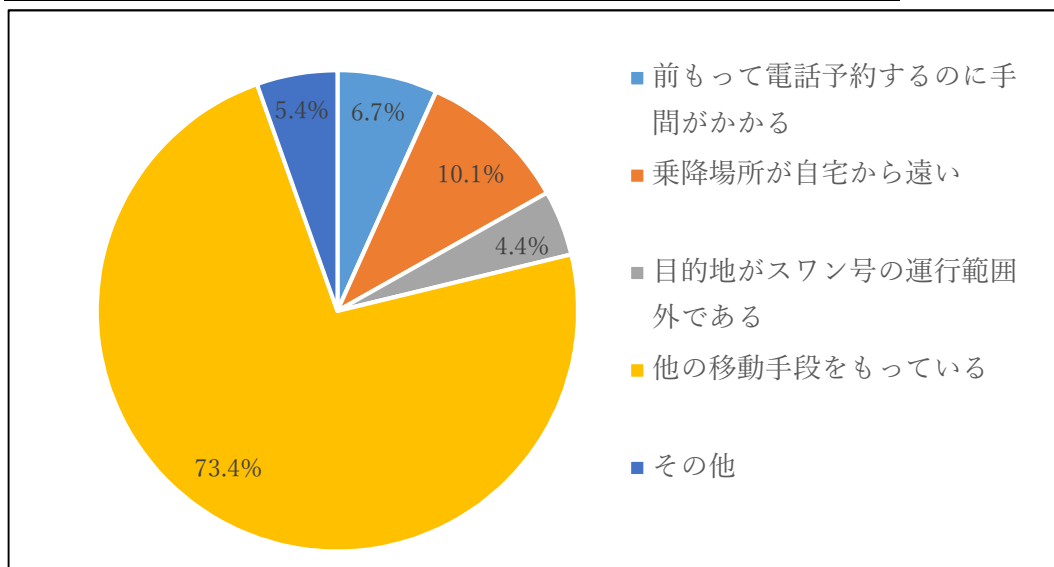
	回答数	割合
大変満足	4	10.3%
まあまあ満足	18	46.2%
あまり満足していない	8	20.5%
満足していない	9	23.1%
合計	39	—



問2-7. (問2-2で2.「ない」と回答した方へ)
スワン号を利用しない理由について、ご自身の考えと一番近いものをお選びください。

- ・「他の移動手段をもっている」方が全体の7割を超えた。
- ・「その他」の内容としては、「自家用車所有」という回答が多く、「利用したい時間帯と合わない」といった回答も何件かあった。

	回答数	割合
前もって電話予約するのに手間がかかる	36	6.7%
乗降場所が自宅から遠い	54	10.1%
目的地がスワン号の運行範囲外である	23	4.4%
他の移動手段をもっている	392	73.4%
その他	29	5.4%
合計	534	—



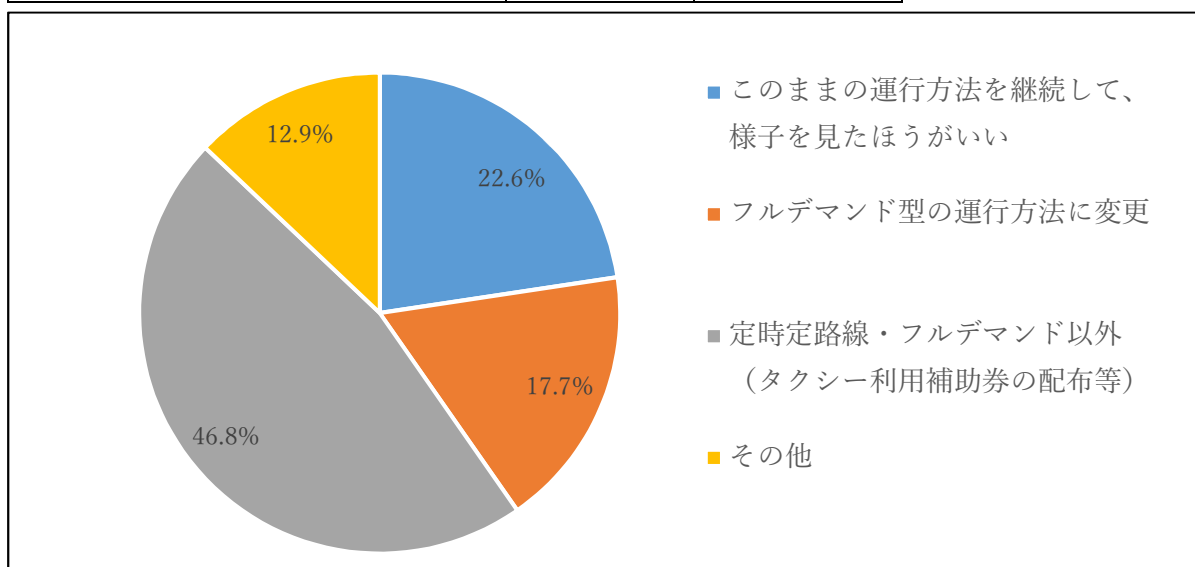
問3 スワン号の今後の運行の方向性について

問3-1. スワン号の今後の運行について、ご自身のお考えに一番近いものをお選びください。

・一番多かったのは「定時定路線・フルデマンド以外の方法に変更した方がいい」で 46.8%、次に「このままの運行方法を継続して様子みる」で 22.6%、「フルデマンド型の運行方法に変更した方がいい」は 17.7%、「その他」については 12.9%という結果となった。

・「その他」の内容については、自由意見欄で現在の運行方法はやめた方がいいといった意見、より費用対効果が出る方法へ見直した方が良いという意見が多かった。

	回答数	割合
このままの運行方法を継続して様子みる	119	22.6%
フルデマンド型の運行方法に変更	93	17.7%
定時定路線・フルデマンド以外に変更 (タクシー利用補助券の配布等)	246	46.8%
その他	68	12.9%
合計	526	—



自由意見について

- ・フルデマンド型運行が良いと思います。必ず不満が出てくると思いますが、これ以上の案は中々でて来ないと思います。
- ・私は普段印西牧の原駅を利用しています。また、仕事も時間がきまっておらず普段使ってみたくても使えない現状です。印西市内で使えるようであればタクシー利用補助券の方が使いやすいと思っています。
- ・あまり利用されている方がいないように見られます。市の税金の無駄使いだと思
- ・今後はますます高齢者が増え自分が使いたいときにタクシーで利用できれば良いと思います。人それぞれの利用法が違うのですから。
- ・夜などすれ違う時にこわい。色が黒いので変えた方が良い
- ・スワン号の色が暗いので遠くから見にくい。スワン号と名前つけるなら白色の方が良いのではないのでしょうか？ちなみにルート外でするので利用しません。
- ・デマンド型が増えている事、乗車人数を考え合わせると、タクシーに家の前まできてもらう方式に変える方法がよいと思う(利用券でも、フルデマンドでも) 現在のままで行くのであれば、運行通路をもう少し細かく、広くし、途中下車もありにするのが良いと思う。(例えば、栄町のマルエツや北総栄病院の方をまわるなど)買い物、病院は高齢者には必要
- ・一人当たり6万、もう少し考えたい！
- ・現在は自家用車で移動しているが、後期高齢者なので免許返納も常に頭にあり、そうなると移動手段がなくなってしまうと思われるのでぜひ継続してほしいと思っている。
- ・運賃高すぎ
- ・一律 300 円は高い。距離によって少し変えた方が良いのでは？
- ・出発時間が電車の発車時間と近く使いづらい
- ・安食ト杭コースで運転手のマナーに迷惑を感じています。何度か役場に電話でコースの変更または運転手の変更を願いましたが、変化の無いままでしたので、この度は強く抗議させていただきます。予算の問題よりも、平日安食ト杭コースの運転手の横柄な態度に毎日悩まされています。コースの変更により事業の継続なら容認できますが、おなじ安食ト杭コースの運転手の継続なら、抗議いたします、2年間近くスワン号の運転手問題に家族で悩まされているので、ご検討のほど宜しくお願いします。
- ・運行を止めてほしい。理由は中学校登校中に避けてくれなかったり、スピードが結構でていて危ない、よけているのにスピードを落とさないのは危ないから止めてほしい。このような理由から登下校中に危ないのでとりやめてほしいと思います。
- ・スワン号に人が乗っているのを見たことがない。朝、夕1往復だけで何のための運行か意味がわかりません。また、1台しか通れない道にもかかわらず、あいさつもなく譲る気もない運転では、納得がいきません。税金の使い方をもっと考えてほしいと思います。
- ・運転手の態度が悪いので運行をやめてほしい。運転マナーが悪く、走っているのを見るだけで気分が悪い。宅配の人にも迷惑をかける運転をしている。この先も運行をつづけるのであれば、平日の運

転手を変えるか、態度を改めるように指導してほしい。スワン号に誰かが乗っているのを見たことがない。税金のムダな気もする。ムダに税金を使って、いやな思いをさせられるなら、スワン号は廃止でいいと思う。

・バス停までの距離が遠すぎる。

・やめれば

・フルデマンド型とタクシー等利用補助券の二刀流、自動車免許返納者に対してタクシー等利用補助券の交付

・印西病院、印西牧の原駅、マルエツ・ヤオコーまでの買い物など行けるといいです。

・1. 定時運行を継続するなら、もっと早いまたは遅い時間が良い。2. 大型バスを運行出来るようにし、それに対応したバスを整備してほしい。

・1. 今まで乗車している人を見た事がないので、現状は必要ないと思う。経費の無駄だと思う。ただ利用したいと思っている人は、少なからずいると思うのでタクシーを呼び利用できるようにし、市が補助金を出せばいいと思う。2. 今後は(5年後、10年後)状況が変わると思うので、その時に運用方法を替ればいい。(免許返納者が増える)

・今はまだ車に乗る事が出来ませんが、もう免許証を返納する年になりました。車に乗らなくなったら、スワン号を利用するしかないと思いますので、続けて運行をしていただきたいと思います。

・スワン号の運行については、現在いつ見かけても乗客が見当たらず市民としても心苦しい感があります。しかしながら、現在住んでいる所から考え、車が利用できなくなると生活に支障がでるのはあきらかです。何らかの手助けが欲しいと思いますが、正直どうすればスムーズかというのはわかりません。無駄なく、不便を感じずに生活するには今後も考えていきたいです。

・毎日見かけますが誰も乗っていません。1 千万円以上経費がかかっていると前から聞いていたので、もったいないといつも思っていました。又、運転手の方はよけていてあげても挨拶もしません。とても感じ悪いです。必要な方だけ電話で予約する簡単な方法で行った方が良くと思います。旧本埜地区では利用する人はいないと思います。それぞれの移動方法があるからです。

・1. 朝・夕と自宅の前を通るが運転マナーが悪い。2. いつも誰も乗っていない。3. 安食駅に行く用事はない。4. タクシー助成について(旧本埜二小付近だけが住民ではない!)5. 年間 1400 万円余りの予算、他に有効活用してほしい。(1日1人未満の利用はいかがなものか?)6. 龍腹寺(五十嵐花園)の交差点に信号を設置してほしい。バス路線を一つ廃止すれば可能と考える(本埜幼稚園の送迎危険)

・利用者が車に乗っているのを見たことがない。運転手の方がなにか気の毒に見える。スワン号の実績人数のデータは内容がよくわからない数値です。実際の利用状況の把握はどのようにしているのでしょうか。曜日毎、年令ごと、区画毎なのか調査対象に対する調べ方がたりていないと思われる。利用頻度をよく調べられていないのでしょうか。このアンケートにしたって、的を得ていないやり方に思う。他の他部署による調査や申請はスマホなどでできるようになっているのに比べるとなんと無駄なことかと。見直しの参考にするという表題の目的はどんなふうにして生まれたのか。利用者が少ない、必要か、

廃止か、存続方法について市役所の福祉、住民課他いろいろな課を横断した検討が必要。交通対策課だけで考えるのは地域の人に利便性が生まれない。

- ・朝の運行が早い。この寒さで待っている人はつらい。税金の無駄遣い。
 - ・行きはヒマワリのバスで帰りはタクシーを利用しているのでタクシー券があればありがたいです。日常の買い物は、生協(生活協同組合)の配達があるし、通販も利用しているので生活に困っていることはない。バスが増えたとしても、あまり乗らないと思います。図書館も遠くなってしまったが、需要があるところに供給がある。自然の流れで仕方がないと思っています。老人には厳しい時代ですが
 - ・紙の無駄と思います。
 - ・これを配布し、回収するのが大変でした。まだ、車を運転できるので、スワン号は利用しませんが、20年くらいしたら必要かもしれません。萩野・桜野地区は第二学区ではないのでこのアンケートは必要なかったです
 - ・バス停と時間を教えてほしい
 - ・利用者が一人で勿体ないと思う
 - ・1回あたりの利用額が相当高額なので、費用対効果がしっかりでる形が良いと思う
 - ・バス停に問題があります。バス停まで遠い場所が危険な所など
 - ・定時定路線の乗車数がわからないので、少ないなら見直しが必要であると考え。日中のデマンドはもっと対応できる様本数の見直しをしてほしい。(病院での往復で使用したが非常に時間に気を使った為)
 - ・ほとんどバスを利用している人を見ることがないので、中止しても良いと感じます。移動手段がない方にスポットを当てて別の方法を考えるべきだと思います。運賃も安くして利用する人を増やすべき。
 - ・ボランティアタクシー 定期・デマンド共に利用者が少ないのである範囲の中にボランティアタクシー制度を構築してみてもどうか。
 - ・本数が少ないため、利用するのが不便。
 - ・不要
 - ・まだ自力で移動しておりますが、この先年を重ねていく上でスワン号のサービスは必要となってくるものと思われます。今後利用する事も出てくると思いますので、こういうサービスはありがたいと思っています。
 - ・利用したことがないので、今のところは何とも言えません。
- スワン号と言いつつ、なぜ黒色なのですか？暗くなってくると目立ちにくくなります。車を使っていますが怖く思えることもあります。人通りも多くないですが、すれ違った時など速度も少し速く思えます。(私の感想です)
- 本埜の白鳥はコハク・オオハクチョウが来ますが、ほとんどがコハクチョウのはずでは？コブハクチョウは留鳥です。スワン号はどちらですか？(つまらない質問だったらすみません)
- ・私もまだ利用した事がないのですが、利用してみたいと思います。やはりこれから必要になってくると思います。今も必要だとは思いますが。

- ・印旛日本医大、牧の原駅に行くようになるのも便利 中学生の学区外通学も増えているため、通学時間帯の便があればもっと良いのでは
- ・牧の原駅にも行ってほしい、小林中滝野中にも運行してほしい
- ・今まで利用者を見たことがない、無駄遣いをもっと早くきづくべきでは
- ・運転手さんがいい方 できれば今後も続けてほしい
- ・牧の原駅方面への新設をしてほしい、JR 線の本数を1つ減らしても 運行の方面や時間についてアンケートを取ったらどうか。運行会社や利用者ともに良い運行方法をお願いしたい
- ・運転マナーが悪い。曲がり角付近では気をつけてほしい、危険を感じる。必要とする時間に運行していないので不便
- ・タクシー利用補助券の配布を希望します。(他4件 同一の回答)
- ・自動車が運転できないと生活できない地域、しかし高齢や病気で運転ができなくなるとどうしたらよいか？というタクシーの補助が助かります。小林駅には、タクシーがいません。本埜地区の人達が呼べるタクシーを確保していただきたいと思います。高齢者が無理をして運転して事故をおこしたりしない様、時間に関係ないタクシーを希望します。
- ・以下4点 1. ドライバーの運転スピードが速い。2. 時として道を譲ってくれないときがある。3. 空車で走行しているタクシーの維持管理費用が他のサービスに移行しても良いと思います。4. スクラップ&ビルズ
- ・無駄になる費用をかけるなら乗合という考えではなく、すべての住民にタクシーの利用券を配布する。
- ・今まだ一人で行動できますが、この先運転が出来なくなった時考えるとバスの運行は必要と思いますし、タクシー券も一回1枚とのこと、やはり先の事を考えるとバスもありがたいと思います。
- ・必要な時にタクシー券を使用し補助することで十分である。利用者の利点は、自宅と目的地の利用で無駄がない。・印西市としても予算減になる。・車が使用できない独居老人・障がい者等の移動困難者に補助額を全額、印西市が補助しても良いのではないか。
- ・負担額が大きい割に利用客が少ない(1日平均2人に満たない)のがもったいないですね。自宅から目的場所へタクシー等(のりあいでも可)で行き来でき、補助金が出る形が良いのでは。難しいとは思いますが、できるだけ多くの人を利用できる形を探してほしいです。
- ・印西牧の原行きを作ってみてはどうか。通学の足に使うのであれば、中学校(近くでも)に停留所をおいてみたらどうか。
- ・数がすくない
- ・経費負担についてはもったいないと思う。良策頼む
- ・1400万は勿体ない、平均1人の利用でざんねんです
- ・目的地までいくのに乗換などで時間がかかりすぎると思う 運賃も定期便高い
- ・住民の中には車を乗れない方もいると思うので、コミュニティバスは続行してください。これからも運営費等かかるとは思いますが……。
- ・数がすくない

- ・通勤通学の時間帯の運行を増やすと良い。6:30~7:00位の電車に合わせて運行すればもっと利用しやすくなると思う。
- ・今は運転できますが、車を運転できなくなった時にとても不便を感じます。将来も気軽に利用できるバス(タクシー)があると良いと思います。
- ・スワン号をよく見かけるが乗っている人を見たことが無い。自宅から乗降場所までが遠い、歩いて行けない。スワン号の見た目が黒で印象が悪い(成田みたいな青っぽく子供うけするようなキャラクターうなり君みたいな外観の方が良い)

公共交通不便地域対応指針の策定について

(印西市地域公共交通計画(令和2年度策定)P84より抜粋)

- ・市内には、公共交通不便地域が存在しており、その対応として、コミュニティバス（ふれあいバス）の運行や乗合タクシー（スワン号）、宗像路線の実証運行など、その解消策として取り組んできました。しかしながら、網羅できていない公共交通不便地域が点在しており、その対応として、一定水準の公共交通サービスを楽しむことができるよう、市内公共交通の確保が必要です。
- ・一方で、印西市民の運転免許証や自動車の保有率、毎日自動車を運転する割合は、非常に高い状況であり、自動車中心社会であることがわかります。その割合は公共交通不便地域が多く存在する、印旛地域、本埜地域でより高くなっています。
- ・こうした状況を背景に、要望を受けて運行を開始した乗合タクシー（スワン号）の実証運行では、利用者が1日1人にも満たない状況であり、これは地域の公共交通に対する認知度や必要性が低いものとも考えられ、今後の公共交通不便地域へ対応する場合にも、同様の状況となる可能性が考えられます。
- ・今後の公共交通不便地域への対応については、指針となる「公共交通不便地域対応指針」を策定します。その策定の際には、公共交通を実際に利用するその地域の役割について明記し、地域協働による公共交通不便地域の解消に取り組みます。

⇒今後の印西市内の公共交通不便地域に対する方針について、スワン号の実証運行を踏まえ検討する

どのような対応をするべきか

スワン号の実証実験をして得た課題

- ・「移動の方向が多様であり、一つの路線・区域などに絞った効率的な運行が難しい」
→地域によっては、生活圏が市外となっていたり、必ずしも近場へのアクセスが可能であったとしても地域のニーズに答えられているとは限らない
- ・「運賃は、定額300円とタクシー運賃と比較しても割安となっていたが、利用状況は少ない結果となった」
→「公共交通機関を利用する理由として、「安価である」こと以外にも、アンケート結果からも、「乗降場所が自宅から遠い」「予約するのに手間がかかる」といった理由が重視されている
→元々が生活をするために自家用車を使用することが必要な地域であることから、自家用車での移動に近い移動形態、料金以外にも「自宅から」「行きたい所にすぐ行ける」点が重視されているのではないかと

公共交通等のそれぞれのメリット・デメリット

○コミュニティバス(ふれあいバス)

メリット

- ・利用1回あたりの行政負担額が割安である(ただし、利用者が少ないと費用負担が増加する)

デメリット

- ・狭隘な道路を運行することが難しい(その他課題)
- ・1ルートの運行経費が約2,000万円~2,500万円程度かかる(計上する費用自体固定である)

○デマンド事業

メリット

- ・料金の設定次第ではあるが、利用者の負担が割安な状況で自由に移動できる(スワン号では300円)

デメリット

- ・利用1回あたりの行政負担額が割高になる可能性がある
- ・(その他課題)地域によっては既存の交通事業者との競合になる

○タクシー利用券

メリット

- ・行政負担額が比較的割安であり、利用に応じた支出額となる
- ・自家用車での移動に比較的近い利用が可能である

デメリット

- ・利用者の負担額は他の交通手段と比較して割高になる可能性がある(補助金額の設定によって前後)

公共交通不便地域対応指針(案)について

- ・スワン号運行の実証実験を踏まえ、現在実証実験をしているタクシー利用券の配布を公共交通不便地域においても実施することを地域特性に応じて検討していく。
- ・道路及び運行ルートの問題が解決しうるなら、コミュニティバスのバス停の新規設置、ルートの新設を検討する。
- ・デマンド事業については、市内の公共交通不便地域における実施を完全に否定するものではないが、導入する際は、ニーズ、区域設定、既存事業者との競合の問題等を、総合的に、慎重に検討する必要がある。